

平成31年度(2019年度)佐賀県立白石高等学校(【新設】佐賀県立白石高等学校 普通科キャンパスを含む)学校評価計画

1 学校教育目標 高い志と進んで責任を遂行する強い意志を持ち、社会に貢献できる、知・徳・体の調和のとれた、心身ともに健全な人材を育成する。	2 本年度の重点目標 ①生徒一人一人の学習状況等に応じた『伸ばす教育・伸びる教育の推進』 ②生徒一人一人の関心・意欲に応じた『進路ガイダンスの充実』 ③ハイレベルな文武両道を目指す『質の高い授業』と『行事・部活動のバランス』 ④規範意識や礼節、報恩感謝などの素養を育むことによる『品格のある校風の醸成』 ⑤家庭や地域社会との相互理解による『信頼される学校づくり』 ⑥校舎制による円滑な学校運営 ⑦高校魅力づくりの推進
---	--

達成度
 A:十分に達成できた
 B:概ね達成できた
 C:やや不十分である

3 目標・評価
 ①生徒一人一人の学習状況等に応じた『伸ばす教育・伸びる教育の推進』

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題(左記の理由)	具体的な改善策・向上策	担当分掌(部)
教育活動	●学力向上	生徒の学力の向上を図ることができたか	①各教科で課題の調整を行い、1週間の家庭学習時間の平均を、1、2年生は15時間以上、3年生は20時間以上にする。 ②各学期末成績で欠点保持者を1割未満にする。 ③進研模試の学習到達ゾーンで、B2以上を増やす(1年1月40人、2年1月30人、3年11月25人)。また、D層を減らす。	①各教科で具体的に家庭で取り組むべき内容を指示し、提出指導の徹底を図る。また、機会あるごとに家庭学習習慣を呼びかける。3年生においては、高校総体及び白高祭(学校祭)からの気持ちの切り替え指導に重点をおく。 ②普段の課題の未提出者には、必ず個別の指導をする。考査前には成績不振者に指導を行う。また、学期ごとに成績状況をこまめにチェックし指導を行う。 ③考査前、考査期間中の家庭(学校でも)学習の状況については、学年主任や担任に取り組み状況を確認し、期末考査後には取り組み結果を全校集会時に伝える。	C	①課題提出の徹底や家庭学習の習慣化が不十分であった。また、学年によって家庭学習時に偏りがみられた。3年生については、切り替えができたかよりも、推薦入試等で早めに進路が決定した生徒との足並みが揃わなかった。 ②課題の未提出者が同じであることが多くみられた。これが成績不振の原因であることもあり、早めの指導が必要となった。 ③家庭学習の意識の徹底はもとより、学校の状況については、学年主任や担任に取り組み状況を確認し、期末考査後には取り組み結果を全校集会時に伝える。	①生徒の進路の多様化が進み、生徒の進路意識も幅広く意欲向上とともに、進路意識を高めることで学力向上の意識につなげる。 ②課題未提出者には放課後学習会の設定や部活動停止の措置を取るなど、必ず提出する意識を持つようにする。 ③家庭・学校を問わず、学習が必要であるという雰囲気や醸成を図る。放課後特訓に加え、朝テスト、任意・必須の放課後学習会、成績不振者の早期指導、褒賞・罰則の導入など。	進路指導部 教務部 1年・2年・3年
教育活動	○教育の質の向上に向けたICT活用教育の実施	ICT活用教育の推進により、生徒の意欲や学力は向上したか	①教師が、生徒の視覚的・聴覚的な情報の活用を通して学習内容に興味・関心を持てるようにし、学習に対する意欲を高めるようにする。 ②教師が、授業においてICTを活用することの効果高めるために、授業内容の効果的な提示・展開・記録等を行う。 ③生徒が、学習に必要な情報を収集したり、繰り返し学習によって知識の定着を図ったりしやすいようにする。	①授業内容に関係する画像・映像・図表・グラフ・音声・楽曲等を提示し、内容に集中して取り組めるようにする。 ②効果的な提示方法やタイミングの検討、提示内容の吟味、展開・記録方法等の検討を行う。 ③情報収集のために必要な時間を設けたり繰り返し学習を行うための教材・資料等を作成したりするようにする。	B	①95%以上の生徒が「学習に対する意欲や学力の向上に役に立っている」と回答していることから、生徒に対する効果は十分に発生していると考えられる。 ②年度途中で電子黒板が変更されたこともあり、前年度より「授業の準備がしやすくなった」「授業が効果的に行えるようになった」との回答が減少している。 ③使用できる教材が教科ごとに異なるので、各教科に合わせた細かい案内が必要だったが、不十分であった。	①生徒の意欲や学力は、「ICT活用教育の推進」を含め、様々な要素から向上していくものと考えられる。そのきっかけとして興味・関心を高めることの効果は重要であるため、今後も継続していきたい。 ②効果的な提示・展開・記録等についての研修や、各教科内での検討会等を行い、より良い方法や新しい方法の開発を目指す。 ③校内・校外に関係なく研修や資料の提供を増やす。	企画部
教育活動	○希望進路の実現	生徒一人一人の希望進路は達成できたか	①難関大学複数名をはじめとする国公立大学進学希望者のうち20名以上の現役合格を目指す。	①成績上位者には特別指導を実施することで、難関大学合格へ向けた十分な対策を行う。また、生徒の受験機会を一般入試に限定せず、AO・推薦入試に向けた個別指導の対策にも力を入れる。 ②模試後には成績状況を提供し、各教科で生徒の学力を把握することで、適切な教科指導を行う。	C	①成績上位者には特別指導を施したが、思うように成績が伸びず、難関大学に挑戦させることができなかった。AO・推薦入試に向けた個人指導については、ある程度の結果が出せたと思う。 ②模試後に成績状況を先生方に報告することができた。その結果、例年より成績を向上させることができた。	①成績上位者に対して特別指導を行うことは今後とも行う必要があるが、もう少し早めに実施しなければ成績は向上させることができない。 ②模試後に成績状況を各教科及び学年に提供することは今後とも行われるべきだが、提供した後に各教科及び学年に分析をしてもらい、今後の指導に生かすところまでするべきである。	進路指導部
教育活動	○読書習慣の定着	生徒の読書への意欲や活動は活性化したか	①新しい図書配置と、よりよい蔵書購入及び啓蒙を図る。 ②クラス単位の読書量を増やす。	①「特集コーナー」を設けて知的触発をする。 ②図書委員で管理する「学級文庫」については、寄贈図書を活用し、配布冊数を増やすなど充実を図り、クラスでの読書環境を整える。	A	①「特集コーナー」を設けたことで、生徒の興味喚起や進路意識向上につながった。 ②「学級文庫」の効果もあり、各クラスの貸し出し数が増えた。	①図書部会で作成した「とにかく読もう」にある推薦図書を展示し、読書の推進を図る。 ②生徒の希望図書を「リクエストカード」を利用して導入するとともに、図書館来館を促す。	教務部

②生徒一人一人の関心・意欲に応じた『進路ガイダンスの充実』

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題(左記の理由)	具体的な改善策・向上策	担当分掌(部)
教育活動	○進路意識の向上	3年間を見通して計画的に進路情報を与えることはできたか、また、そのことにより生徒の進路に対する意識は向上したか	①将来学びたい学問分野と現代社会のトレンドや問題点を意識させる。 ②高大連携授業、職場体験活動などの学校外での活動にも参加者を増やす。また、オープンキャンパスや進路ガイダンスへの参加者を増やす。	①『白高進路情報』に小論文指導に役立つ新書を学問分野別に一覧にし、総合学習や推薦入試・AO入試の受験時に生徒に活用させる。また、社会問題や最新科学等を扱った映像ライブラリーを作り、生徒が教養を身に付けたり社会背景を知ったりする手段の一助とする。 ②進路講演会(全)、大学説明会(全)、オープンキャンパス(全)、進路ガイダンス(全)、キャリア教育講演会(全)、合格体験発表会(1.2年)、実習生講演会(1.2年)、志望理由書面接講座(2.3年)、大学訪問(1年)、仕事について学ぼう(1年)、ジョイントセミナー(2年)を進路指導部で主導し、生徒の進路意識を啓発するのに役立てる。	B	①『白高進路情報』に小論文指導に役立つ新書を学問分野別に一覧にし、提供した。また、映像ライブラリーを作り、生徒に提供した。一定の効果はあったと思うが、特に映像ライブラリーの利用が少なかったと思う。 ②進路講演会(全)、大学説明会(全)、オープンキャンパス(全)、進路ガイダンス(全)、キャリア教育講演会(全)、合格体験発表会(1.2年)、実習生講演会(1.2年)、志望理由書面接講座(2.3年)、大学訪問(1年)、仕事について学ぼう(1年)、ジョイントセミナー(2年)を進路指導部ですべてを主導し、実施することができた。	①『白高進路情報』に小論文指導に役立つ新書を学問分野別に一覧にし、プリントにして提供するとともに、図書館にも協力してもらって購入、提供することが必要だと思う。また、映像ライブラリーを作り、生徒に対してプリントなどでも内容を提供し、ライクカードも必要になってくると思う。 ②進路講演会を初めとしたさまざまな企画は今後とも進路啓発事業として必要である。ただ、生徒がどのように受容しているのかわからないところもあるため、今後はClassiなどを利用してPDSIサイクルを生徒に作らせ、生徒に進路についてさらに考えさせる機会を設けたい。	進路指導部 1年・2年・3年
教育活動	○「総合的な学習の時間」を通じた進路意識の向上	1年:自分の進路について考え、それに沿ってグループで研究することができたか 2年:自分の進路実現の方策について研究し、個人で研究することができたか 3年:入試に応じた研究をするとともに、志望理由についても明確にすることができたか	①1年:「夢を創るとともに、知る」自己理解等を通して将来を見つめる。 ・グループで自分の問題を探る。 ②2年:「夢を実現するために、深める」 ・大学の学部・学科等の研究をする。 ・個人で自分の分野の問題を探る。 ③3年:「夢を実現するために、次へ進む」 ・自分の進路に応じた研究をする。 ・自分の進路志望理由を確認する。	①1年:「夢研究」においてワークシートを用い、自己理解に基づいて夢を確認する。また、グループ研究において自分の分野の問題について考えさせる。 ②2年:職業・学部・学科についてまとめさせる。また、個人研究において自分の分野の問題について考えさせる。 ③3年:個人研究において自分の分野の問題についてまとめさせる。また、自分の進路に対する理由書を作成させる。	B	①2年度当初の計画に基づき、各学年の「総学習」担当者の指示により取り組むことができた。3学期には「夢を形に プロジェクト」発表会を開催し、1年生は6グループによる発表を、2年生は8名の代表者による発表を行うことができた。その際、発表者以外の生徒は、評価を行うことで活動に取り組んだ。しかしながら、昨年度に比べ発表時間が短くなる傾向があった。 ②個人の進路に向けて研究を進め、必要となる理由書をまとめることができた。	①次年度は、1年生においては、商業科キャンパスの生徒と合同で「総合的な探究」発表会を開催する方向で計画を進めたい。また、発表会の際には、近隣の中学校にも事前に連絡をして、発表をってもらうことで、より白石高校を身近に感じてもらうようにしていきたい。	教務部

③ハイレベルな文武両道を目指す『質の高い授業』と『行事・部活動のバランス』								
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題(注記の理由)	具体的な改善策・向上策	担当分掌(部)
学校運営	○教職員の資質向上	教職員の授業力向上のための研修は実施できたか	①互見授業、および職員間の授業参観を実施し、授業力の向上に努める。 ②授業評価を実施することで生徒の授業の理解度を把握し、授業内容の改善に努める。 ③指導力向上のための研修会への参加を支援する。	①互見授業後の授業研究会、および授業参観後の評価・感想を通して、授業の改善に必要な内容を知る。 ②2学期に授業評価を実施し、業績評価表にリンクさせるとともに、授業の改善に役立てる。 ③研修会や研究会等の情報提供を、積極的に行う。	A	①各教科担当の代表による互見授業は予定通り実施され、他教科の教員も参観し、評価・感想の記入など十分に達成できた。 ②授業評価を1学期末・2学期末と2回実施できた。集計結果を活かし、次の学期の改善につなげることができた。 ③企画部だけでなく、各分掌からの情報提供も広く行われた。	①可能な限り授業研究会を行い、授業者と参観者の意見交換を行うことで授業参観の効果を高める。 ②各授業担当者が集計結果を十分に検討し、授業改善に生かせるようする。 ③研修会や研究会についての情報収集を入念に行う。また効果的な提示方法について検討する。	企画部
活動教育	○主体的な生徒会活動	主体的な生徒会活動により、生徒会や委員会活動は活性化できたか	①各校務分掌と生徒会各部が連携を取り、各種委員会活動の活性化を図る。	①生徒総会を実施し、各部の目標を全校生徒で確認し、計画を実施する。	B	①生徒総会を実施し、各部の目標の周知はできたが、取り組みに関しては目標達成できている部とできていない部で差がでてしまった。	①各部への取り組み状況に関しての声かけやアドバイスを適時おこない、各校務分掌との話し合いの時間などを設けるようにする。	生徒指導部 (生徒会)
教育活動	○部活動の活性化	文武両道の推進を図ることができたか	①部活動加入率85%以上を目指す。 ②全国大会出場2部、県ベスト4以上3部、県ベスト8以上2部を目指す。 ③完全下校時間を厳守する。	①新入生に対して両キャンパスで共同の部活動紹介の実施や勧誘又は、見学などを行い、入部しやすい環境を作る。 ②限られた時間の中で効率の良い練習を行い長期的な強化を図る。 ③学習時間確保のためにも、下校指導を徹底し、学習ができる環境を作る。	C	①両キャンパスでの部活動紹介を行い、部活動加入率も88%と目標に到達することができた。 ②各部、積極的な活動ができていたと思うが、目標に届かなかった。 ③各部活動の部長への注意喚起や先生方の生徒への声かけもあつたが、下校時間を守れていないこともあつた。	①来年度は新白石高校完成年度でもあり、加入率が上がるよう部活動紹介など力を入れていきたい。 ②両キャンパスで協力して部活動を活性化できるよう顧問配置なども見直していきたい。 ③部長はもちろん部活生への声かけや、顧問の先生との共通理解を密に取って取り組んでいきたい。	生徒指導部 (生徒会)
④規範意識や礼節、報恩感謝などの素養を育むことによる『品格のある校風の醸成』								
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題(注記の理由)	具体的な改善策・向上策	担当分掌(部)
教育活動	○規範意識やマナー	規範意識やマナーは向上したか	①高校生らしい爽やかな身だしなみで落ち着いた学校生活を送らせる。 ②気持ちの良い挨拶が飛び交う学校を作る。 ③問題行動を「0」件にする。	①普通の学校生活の中から職員全員で指導にあたり、学期に2回は服装頭髪検査を実施する。 ②毎朝生徒の登校時には職員が交代で登校指導を行い、生徒会役員が挨拶運動を実施する。 ③集会やホームルームの折に、生徒に対して注意喚起する。	B	①②毎朝生徒の登校時には、昇降口に職員が立ち、登校指導をおこない、月初めには生徒会役員があいさつ運動を実施した。あいさつは良好ではあるが、服装の乱れがある生徒にはその都度指導をおこなった。 ③問題行動が3件おこった。日頃からの注意喚起を徹底するべきである。	①②今後も毎朝生徒の登校指導は、全職員で取り組んでいきたい。来年度は最低でも始業式の後に服装・頭髪検査を実施して、日頃から身なりを正して学校生活を送るようしたい。 ③使っている物や生命を大切に思う気持ちを養えるような講演や指導をしていきたい。	生徒指導部
教育活動	○安全や防犯	安全、防犯意識の高揚を図ることができたか	①交通事故「0」件にする。 ②事故や事件に巻き込まれないように普通の指導から未然防止に努める。	①安全・防犯・薬物に関する講話を専門機関に依頼して実施する。 ②集会やホームルームの折に、生徒に対して注意喚起する。 ③定期的に自転車の施錠点検を実施する。 ④自分の持ち物や貴重品など管理を徹底させる。	B	①②生徒が安全に生活が送れるように専門機関に依頼して講演会を実施した。今年度の交通事故数はゼロであったが、自転車の運転について警察に指導を受ける生徒が多かった。 ③④自転車点検(1回)定期券点検(2回)実施した。体育祭期間に現金の紛失があり、教室の施錠の徹底をよびか	①②安心で安全な学校生活が送れるように今後も専門機関の協力を得て講演会などを実施していきたい。 ③定期券検査は学期に1回は実施したい。 ④まずは自分の持ち物や貴重品は自分できちんと管理できるように指導し、教室や部室の施錠を徹底させる。	生徒指導部
教育活動	○情報モラルや情報セキュリティ	生徒の情報モラルを高め、情報セキュリティへの意識を高めることはできたか	①個人情報について理解させ、個人情報の取り扱いに留意させる。 ②SNSの活用について指導を徹底する。 ③情報モラル・情報セキュリティの重要性について意識を高める機会を設ける。	①ホームルームや集会等での講話の中で、繰り返し注意喚起する。 ②定期的にネットパトロールを実施し、問題行動の未然防止に努める。 ③情報モラル・情報セキュリティに関する講習・研修などの案内を行う。	B	①②③今年度はPTA総会で、SNS利用に関する講演を生徒、保護者対象に実施した。また、集会の折にSNS利用に関する注意喚起をおこなった。今年度ネットパトロールから指導を受けたのは7名。その都度生徒を呼んで指導をおこない、指摘を受けたデータをすべて削除した。	①②③SNSの利用の仕方については、本人と保護者が注意をして問題防止に努める必要がある。今年度生徒、保護者対象に講演会が実施できたことは良かった。今後もこういう機会を作りたい。引き続き集会の折にはSNS利用について注意を呼びかけていきたい。	生徒指導部 企画部
教育活動	●心の教育	思いやりのある豊かな心をはぐくむことができたか	①ホームルーム活動や講演会等を通して心の教育の実践を図る。 ②地域への理解をすすめる、郷土を愛する心を育てる。	①学期ごとのボランティア活動やテーマごとの講演会を開催し、思いやりや人間性豊かな生徒の育成を図る。 ②「佐賀のことを学ぶ時間」において、講話やホームルーム活動を計画し、白石や佐賀のことについて理解を深めるとともに、伝統行事への参加や郷土料理実習などの体験の機会を設ける。	B	①各学年で、地域等の清掃ボランティア活動に取り組んだ。また、性に関する講演会で性と生に対する理解を深めたり、教育相談講演会を通じ自己理解をすすめることができた。 ②「佐賀のことを学ぶ時間」の活動や講話により、郷土について理解を深めることができた。家庭科の調理実習では地元の方を講師に招き、郷土料理である漬古寿司の由来や作り方を学んだ。	①クラスにおける人間関係に不安を抱える生徒も多く、状況を把握しながら、心の教育につながるホームルーム活動等を計画していく。 ②校内での取り組みを継続しながら、校外における行事へ参加や、地域の人々との交流を積極的にすすめる。	保健指導部 1年・2年・3年 教務部

⑤家庭や地域社会との相互理解による『信頼される学校づくり』								
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題(左記の理由)	具体的な改善策・向上策	担当分掌(部)
教育活動	●いじめ問題への対応	いじめの早期発見、早期対応に向け、いじめ防止基本方針を踏まえた取り組みはできたか	①生徒の実態を把握し、いじめの未然防止に努める。	①生徒会でいじめ防止に関する標語やポスターを作成し、全校生徒の呼びかける。	B	①生徒会でいじめ防止の標語とポスターを作成し、5月の生徒総会で全校生徒に発表している。今年度いじめの認知2件、認知2件であった。	①全校生徒にいじめの定義を理解させ、人を不愉快に指せるような言動を慎むよう、ホームルームや集会で生徒に指導していく。	保健指導部 生徒指導部 1年・2年・3年
学校運営	○保護者との連携	学校行事等への保護者の参加者数は増えたか	①年3回の評議員会、5月のPTA総会、体育祭時の駐車場係、文化祭時のPTA/バザー等への積極的な参加を呼びかける。そのためにも、情宣活動をしっかりとっていく。	①まずは、生徒を通じて、各種行事の案内文を早めに渡すように準備する。同時に、スクールニュースに案内を配付した旨の文章を載せ、保護者へ確実に連絡内容が届くように努める。	A	①例年に比べ、学校行事への保護者の参加数は多かったと思われる。案内文やスクールニュースの効果が感じられる。また、保護者の感心も高くなっているものと思われる。	①今年度と同様に、案内の早期発出、スクールニュースの有効活用を進めたい。	教務部 1年・2年・3年
学校運営	○情報発信	学校情報の積極的な発信はできたか	①「白石高だより」を年5回以上発行し、学校情報を外部に積極的に発信する。 ②学校HPを通じて、学校行事の内容・予定、部活動の活動状況等を積極的に発信する。 ③学校説明会、体験入学については、新白石高校に向けての内容を吟味し、より分かり易く魅力的なものにする。	①「白石高だより」の発行については、保護者・中学生等へのより効果的な情報発信のための配布方法を検討する。 ②HPの内容の定期的な更新を心がけ、できるだけ新しい情報を提示する。各部活動には、少なくとも学期ごとの更新を依頼する。また、生徒・保護者への周知を図るため、職員もHPの最新情報を把握できるよう情報を提供する。 ③学校説明会、体験入学については、パワーポイント等を利用して、分かり易いものにする。	C	①「白高だより」は今年度5回発行し、学校情報の外部への発信に貢献した。ただし、配布方法はこれまでと同じ紙媒体と学校HP掲載のみであった。 ②システムの変更もあり、HP更新は順調に進めることができなかった。各部活動による更新も不十分であった。 ③体験入学は気候を考慮して教室で動画等を利用し、本校について伝えることができた。	①配布方法については、「白高だより」が生徒の氏名・写真などの個人情報を多く含むため、現状以上に行うためには慎重に検討する必要がある。 ②まずは新しいシステムに習熟することを目指す。各部活動による更新については依頼ばかりでは実施が難しいので、企画部による代行も検討してきた。 ③動画等に利用できる場面の撮影を多くしておき、有効に活用する。	企画部 教務部
⑥校舎制による円滑な学校運営								
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題(左記の理由)	具体的な改善策・向上策	担当分掌(部)
教育活動	○授業の実践	授業の円滑な実施はできたか	①出張などによる自習時間を極力抑えて、教科内の操作や授業振替によって、実施率の向上を図る。 ②授業内容の工夫により、より中身の濃い、分かりやすい授業を心掛ける。	①出張情報などを把握し、可能な限り時間割操作を行う。 ②課題の工夫や年間を見通した授業計画により、より充実した学習を提示する。	B	①授業担当者の早期情報提供もあり、円滑に授業変更を進めることができた。 ②比較的順調な授業進行であったが、2月末に発表された一斉休校の影響で、消化不十分な部分が残った。	①次年度も同様に授業の円滑な進行を第一に進める。 ②予期せぬ事態にも対応できるよう、課題の準備や遠隔授業の導入を検討する。	教務部
学校運営	○学校行事	学校行事の円滑な実施運営はできたか	①両キャンパスの生徒が取り組みやすいような行事を企画する。	①できるだけ早めに両キャンパスでの事前打ち合わせや検討を開始し、足並みを揃えるようにする。	B	①入学式、1年生宿泊研修、2年生修学旅行、クラスマッチを両キャンパスで足並みを揃えて実施できた。	①新たに加わる卒業式も含め、引き続き早めの検討開始や、双方の意見交換等をこまめに実施することを目指す。	企画部 教務部
教育活動	○部活動の活性化	部活動の円滑な実施運営はできたか	①部活動加入率85%以上を目指す。 ②両キャンパスの部活動顧問間で情報を共有する。 ③円滑なスクールバス運行を行う。	①新入生に対して両キャンパスで共同の部活動紹介の実施や勧誘又は、見学などを行い、入りやすい環境を作る。 ②部活動顧問会議を実施することで、両キャンパスの情報共有を図る。 ③スクールバスの運行は、事務室と協力し部活動に参加しやすい環境を作る。	A	①両キャンパスでの部活動紹介を行い、部活動加入率も88%と目標に到達することができた。 ②両キャンパス合同の部顧問会議を開いたり、両キャンパスの生徒会担当で会議を行うなど、連絡を密に取り合い共通理解を図れた。 ③行事などに際して、事務室と連絡を適時とることができた。	①来年度は新白石高校完成年度でもあり、加入率が上がるよう部活動紹介等に力を入れた。 ②来年度も部顧問会議を適時開き、両キャンパスで情報を共有し、部活動の活性化を図りたい。 ③来年度は、よりキャンパス間の往来が増えることが予想されるため、より事務室と連携をとりより各行事などの良い運行方法を確立していきたい。	生徒指導部 (生徒会)
学校運営	○学校業務	校務分掌等の円滑な実施運営はできたか	①両キャンパス間で校務分掌を平準化する。 ②分掌事務を連携し相互に情報交換することで、効率化を図る。 ③協同した学校行事などを企画し、精選を図る	①各校務分掌の構成を共通化し、相互に情報交換がスムーズに行えるようにする。 ②ICTツールを活用して、効率的かつ迅速な運営ができるよう工夫する。 ③学校業務をスリム化し、精選することで内容の充実を図る。	C	①校務分掌の中で必要となる担当者に大きな違いはないため、構成は整備されつつあるが、物理的な距離があるため情報交換は十分とは言えない。また、両キャンパスで平準化された感はない。 ②必要に応じてメールでのデータ送信、共有フォルダの活用、テレビ電話会議などを実施し、効率の向上に努めた。 ③業務内容自体が肥大化し続けている。精選するための時間と人的配置がない。両キャンパスで必要な業務そのものが異なる。	①業務内容の精選、平準を図る担当を両キャンパスに配置し、遂行する。 ②次年度もICT利活用を進めるが、肝心な部分は直接相談して効率化を図る。 ③各種調査・報告作業の見直し、外部委員を含めた会議の精選、校舎制の在り方等、学校が抱える仕事量の抜本的見直しを図ってもらえるよう要求を行う。	管理職 教務部
教育活動	○効果的な生徒会活動	校舎間移動の円滑な実施運営はできたか	①学校行事と連携し、効率的なスクールバスを運用することで、部活動の効率をアップする。 ②相互のキャンパス間で専門性を生かし、部活動を活性化させる。 ③生徒による主体的な生徒会活動を運営する。	①校時や行事を鑑みて、より実態に合ったスクールバスの運行を心掛ける。相互に連絡を取り、運業者と緊密に連携をとる。 ②相互のキャンパス間で情報共有し、部活動生徒の参加の実態を把握する。また、実践報告などを行い、相互の魅力を発信する。	B	①事務の協力もあり、順調なスクールバス運行を行うことができた。 ②部活動の実施拠点、特に運動部が普通科キャンパスでの活動が多いため、商業科キャンパスの部活動稼働率が低くなっている。	①次年度も早めに事務との連携を図り、スクールバスの運行計画を策定する。 ②部活動の実施拠点を再検討し、施設の有効活用と両キャンパスの活力醸成に努める。	管理職 教務部

⑦高校魅力づくりの推進								
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題(左記の理由)	具体的な改善策・向上策	担当分掌(部)
学校運営	○魅力と活力ある高校づくり	地域と連携して高校の魅力を高める取組を推進することができたか	①学校や地域の行事等を通じて相互の関係を構築し、理解を深めあう。 ②地域の小学校・中学校と関わりを強めながら、本校の魅力を発信する。 ③地域との触れ合いの中で生き生きと活動するとともに、自己の進路や将来の目標設定において刺激を得る。	①学校関係者と市町の行政関係者で組織した委員会を設定し議論する。 ②スポーツ交流や小学生・中学生への学習指導・技術指導の援助を行う。 ③地域の抱える課題等に関する探究的な学びを通して、視野を広げ、深い学びへつなげる。	A	①白石・大町・江北3町の代表を委員として迎え、年3回のチーム会議を開き、意見を聴取した。 ②陸上・剣道・野球においてそれぞれ小・中学生や地域住民との交流ができ、講評であった。 ③総合的な探求の時間の研究領域の1つとして位置づけ、役場職員からの講義を聴くなどした。	①今年度の委員会の形を踏襲し、さらに深い議論になるよう努める。 ②スポーツ交流は陸上・剣道・野球とも年3回を目途に交流を行う。学習指導についてはJRC部の活動を継続する。 ③地域課題への学びを系統的に行えるように、町役場と連携して学習内容を吟味する。	管理職
本年度の重点目標に含まれない共通評価項目								
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題(左記の理由)	具体的な改善策・向上策	担当分掌(部)
教育活動	●健康・体づくり	望ましい生活習慣の確立と自己管理能力を向上させることができたか	①生徒の食や健康に関する意識を高め、自己管理能力の育成に努める。 ②保健室利用者数年間800人未満を目指す。 ③保護者と連携して健康管理・生活管理を推進する。	①定期的な「保健だより」「食育だより」の発行や講話を通して、食習慣や運動の重要性、健康管理に対する意識を高める。 ②毎週の保健指導部会において保健室の利用状況を確認し、状況に応じて、スクールカウンセラー・学年・保護者と連携を図る。 ③1学期の三者面談時に、定期健康診断等の結果を保護者に渡し、必要に応じて再受診を勧める。	B	①定期的な「保健だより」「食育だより」「教育相談だより」の発行・保健講話に加え、食や健康に関する情報掲示を行うことで、意識づけを行った。 ②毎週の保健指導部会や学期ごとの情報交換会で生徒の情報共有を行い、生徒支援につなげた。1月末までの保健室利用者は622人で、昨年より約9%増加した。頻回来室者の対応について、学年との連携をさらに進める必要がある。 ③1学期の三者面談時に定期健康診断結果一覧を配布し、再受診を促した。10月には、風邪・インフルエンザ予防についての保護者あて文書を配布し、家庭との連携を図った。	①個々の生徒の状況に応じた保健講話等を計画し、自己理解をすすめる。 ②各学年ごとに、教育相談担当者を置き、校内連携を強化する。 ③定期健康診断後速やかに受診勧告を行い、受診率の向上を目指す。	保健指導部
	●志を高める教育	学校生活の中で、向上心を持って臨めたか	①未知の事柄に対して、知識を獲得したり体験しようとする気持ちや意欲を醸成する。 ②より難度の高いことへ挑戦しようとする気概を持たせる。 ③自己の将来の目標を明確にし、理想とする在り様を具体的にイメージさせる。	①社会で活躍する人々の講話等を行い、刺激を与えることで、未知の世界へ意識を開かせる。 ②英検等の資格獲得や、各種コンクール及び県・国主催の企画への参加を積極的に促す。 ③本校のキャリア教育「夢を形にプロジェクト」等を通して自らの夢や適性について考えさせ、これからの社会において何をなすべきかを考えさせる。	B	①講和等の機会は設けることができたが、生徒が話を聞いていない場面もあり、十分な効果は上げられなかった。 ②資格取得やコンクール等への参加を促すことができ、生徒も積極的に反応した。 ③公務員や看護師等、一般的な概念しか持たないままに進路を決定しており、他の職種への関心を抱かせることができなかった。	①他の講話も多く、生徒には特別な機会ではなくなっているため、機会や講師を精選していく。 ②資格取得やコンクールを各教科で受け持たせ、生徒への積極的な参加の促しと支援を継続する。 ③異業種を希望する生徒によるディスカッション等、キャリア教育のさらなる充実を図るとともに、全教科・全活動を通して広く社会に目を向ける教育を実践する。	管理職
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	職場全体の業務分析を行い、適切な業務の分散などによって、学校業務の改善ができたか 教職員の各自の意識改革を促し、業務に係るストレスを軽減し、適切な勤務時間の運用ができたか	①教職員の各自の働き方に関する意識の改革と、業務改善の方策を図る。 ②時間外自発勤務時間の「月100時間超」および「2～6か月平均80時間超」に該当する職員数を減らす。 ③ストレスチェックに係る「高ストレス者」を「0」にする。	①業務改革に係る職員研修を行い、働き方改革に係る意識の啓発を図る。 ②業務記録表の提出などを通して、職員の勤務状況を把握し、早期の声かけと産業医など専門機関の指導を合わせて、勤務時間の適切な運用を指導する。 ③職場全体を見渡した業務の分散を工夫し、業務に係るストレスの軽減を図る。	C	①職員研修や職員会議や朝礼での声掛けを行い、意識はするようになった。 ②長時間勤務には産業医との面談も行われたが、長時間勤務が必ずしもストレスではないこともあり、効果は薄かった。 ③配慮はしたが、小規模校であり且つ校舎制をとっているため、業務を分散するにも限界があった。	①働き方改革の意義については、職員研修等で継続して示していく。 ②長時間労働のストレスによる不調者が出ないよう、常に目配りし、実態把握を行う。 ③各種調査・報告作業の見直し、外部委員を含めた会議の精選、校舎制の在り方等、学校が抱える仕事量の抜本的見直しを図ってもらえるよう要求を行う。	管理職

●は共通評価項目のうち必須項目、◎は共通評価項目のうち特定課題、○は独自評価項目